

彫刻専攻 3 ポリシー

ディプロマ・ポリシー

■ 人材育成目標

彫刻専攻では、多様化する現代社会での立体表現に重点を置きながら、広範な美術教育を行うことで、将来の芸術家、研究者、芸術教育の専門家等の人材の育成を目標にしています。

■ 卒業までに身につけるべき資質・能力

- ・新しい表現を生み出す創造力
- ・社会との関わりについての多面的な理解力

■ 学位の授与方針と評価方法

最終年次の「卒業制作」を含めた所定の単位を修得した学生を卒業と認め、学位を与えます。

- ・所定の在学期間の確認、必要単位修得の確認
- ・卒業制作の評価 …… 彫刻専攻全教員によって様々な視点から採点し、議論の上、総合的に評価を決定します。

カリキュラム・ポリシー

■ 教育課程の編成方針

学生の個性と社会性の両立を目指し、また新しい表現を生み出す創造力を育むようカリキュラムを編成しています。

■ 具体的なカリキュラム構成と特徴

1・2 年次は、実習を通じた実技および理論の基礎教育を、3・4 年次にはその応用教育を徹底した個別指導により行います。

- ・1 年次に塑造・金属・木彫・樹脂、2 年次には塑造・造形・石彫・テラコッタ・材料研究（乾漆）の授業を行います。
- ・3 年次には、各教員のゼミ毎に授業を行い、より広範な表現に対応できる力を養い、4 年次には、これまでの学習や研究の成果を卒業制作に結実できるよう指導します。
- ・国内外で活躍している作家・評論家によるレクチャーを行い、新しい表現を生み出す創造力と社会との関わりを多面的に理解するための力を育みます。

■ 教育課程の評価方針・方法

- ・課題の指導は、専門性の高い非常勤講師も含めた複数の教員が指導にあたり、評価も複数の教員が総合的に行い、客観性を高めています。
- ・その他の授業科目については、各科目の担当教員がシラバスに定めた方法により評価します。

アドミッション・ポリシー

■ 求める人物像

- ・自己管理能力と協調性をあわせ持つ人
- ・不得意とする事柄に対してまっすぐ立ち向かう強い意志と、忍耐力、持久力、体力のある人
- ・先入観に拠らず、自身の考えに対して絶えず異なった観点からの問いを発し、自身の創作によってその答えを模索しようとする人
- ・上記のことを含めた意味で、“美術”が好きな人

■ 入学前に身につけてほしい学習成果

- ・基礎的な描写力・造形力
- ・豊かな想像力

■ 入学試験の基本的な方針・考え方

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、基礎的な想像力・技術力を判定する試験と、大学における勉学に対する意欲をはかる面接を行います。

【一般入学試験】

- ・一次試験では、石膏素描の実技試験の得点と、学科（大学入試センター試験）の合算により合否を判定します。
- ・二次試験では、塑造の実技試験と面接の得点によって、最終合格判定を行います。モチーフは年度によって変更します。

大学入試センター試験や一次試験の得点は加算されません。

【自己推薦特別入試】

- ・自己アピール資料審査と小論文、面接試験により合否を判定します。